2020 年度 学校法人埼玉福祉学園　埼玉福祉保育医療専門学校

学校関係者評価委員会 議事録

日　時	2020 年 7 月 20 日（月）　9：30～11：45(実会議時間)
会　場	埼玉福祉保育医療専門学校　第 1 校舎 302
参加者	＜学校関係者評価委員＞ 高校関係者 野本重雄 ／地域代表 山田とも子 ／卒業生代表 溝上俊亮 保護者代表 亦野光代 ／業界代表 島村和宏・内田三千則 ＜事務局＞ 評議員 小川、学校長 青木、副学校長 飯塚、事務局長 高平、教務部長 渡辺 介護福祉士科学科長 北村、保育士科学科長 沼澤 学生サービスセンター 境野、キャリアセンター 宮田 言語聴覚士科学科長兼書記　室田
次　第	１．配布物確認、開会の言葉 ２．学校長挨拶 ３．委員紹介 ４．①職業実践専門課程について ②2019 年度重点目標と結果 ③2020 年度自己点検・評価内容 ④質疑応答、評価シートへの記入 ５．　謝辞

内　容

１．配布物の確認、開会の言葉（渡辺）
・配付物の確認（2 点）：データを希望の方はこちらからお送りする。
・流れの確認

２．学校長挨拶（青木）
・人事について：事務局長であった飯塚は副校長、事務局長として高平、教務部長として渡辺が就任。
・学校名：「埼玉福祉保育医療専門学校」へ変更し、医療分野も教育していく。
・コロナおよび緊急事態宣言の経緯
　卒業式：校内にて実施した。
　入学式：関連校全て実施しなかった。
　授　業：入学式以降休校。5/11 以降、オンライン授業を実施した。6/1 から分散登校を併用。
　　6/29 から登校による授業を実施した。
・マスクの着用、ソーシャルディスタンス、消毒の徹底など、新しい生活様式にて迎えた。
・3 つの教育理念（実学教育、人間教育、国際教育）を重視している。
・多職種連携は実学教育、人間教育の中で達成していく。
・時代の中で対応できる力は国際教育の中で達成する。
・今必要な人材の養成、地域から信頼される人材の養成を目指している。
・4 つの信頼（学生・保護者、高校、業界、地域）を得られるよう取り組んでいる。

３．委員自己紹介
・業界代表：島村氏（社会福祉法人ハーモニー理事長）
保育園は、登園自粛要請を行い、感染対策を実施。３か月程度自粛した。登園開始時は子どもらが動画づけになっていたり、親のストレスなど、大変であった。１か月程度過ぎ、ようやく元に戻ってきた。現在はソーシャルディスタンスを子どもと保つことが難しい現状。
就職については、保育士不足のため、オンライン合同説明会を実施した。Zoom を使うことでじっくり話を聞くことができ、メリットも感じられた。今後も継続していきたい。

・業界代表：内田氏（介護老人保健施設いづみケアセンター施設長）
野村や飯塚と親交があり、当校と縁が深い。

・地域代表：山田氏（仲町３丁目自治会広報部長）
地域活動はすべてボランティア。たまに会議に参加すると非常に勉強になり、引き締まっている。我々が頼りにしている学校。氷川参道の役員もしているが、飯塚にも協力してもらい、非常に心強い。学校は結果を出すことに頑張られていると評価している。

・高等学校代表：野本氏（埼玉県専修学校各種学校協会参事）
専門学校は重要な岐路に立っている。日本語学科の廃止の検討など、大変厳しい。
また、コロナによって３か月授業が行えなかったが、国家資格の授業時間は決められており、長期休暇を削らないと資格が取れない。関係者は皆頭を悩ませている。学校での感染症対策をしなくてはいけないが、補助金はなく、３重苦を強いられている。職員にも影響がある可能性がある。
研修については、遠方者が「大宮には来たくない」と断られることも多かった。教員認定にかかわるため、頭を悩ませている。

・保護者代表：亦野氏（介護福祉士科１年の保護者）
本日はいち保護者として参加したい。

・卒業生代表：溝上氏
当校の同窓会にかかわっている。介護については、高校ではまだ３Ｋのイメージが強いため、手当についてなど説明している。学校から情報をもらい、市に還元しており、良い関係が築けている。今後も協力しあっていきたい。

・職員紹介（高平）
　学校長：青木
　評議員・滋慶学園グループ本部長：小川
　副学校長：飯塚
　事務局長：高平
　教務部長：渡辺
　学生サービスセンター：境野
　キャリアセンター：宮田、野村
　埼玉ベルエポック製菓調理専門学校　教務部長：小野
　介護福祉士科学科長：北村
　保育士科学科長：沼澤
　言語聴覚士科学科長：室田

４．①職業実践専門課程について（飯塚）
・目的：職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術について組織的な教育を行うものに認定する。
・認定：業界との連携をしている。実施および報告をしている学校を認定する。
・学校関係者評価委員会：学校からの自己評価を学校関係者に評価および助言を頂く。
・教育課程編成委員会：業界が求める教育になっているか、評価および助言を頂く。
・スケジュール：自己点検自己評価は６月、第１回委員会は７月
・申請学科：介護福祉士科、社会福祉士科
・学校組織目的：埼玉県で生まれ、育ち、県内で学んで、埼玉県の福祉・職の安心安全に貢献し、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々の人生を豊かにする人材を養成する。

４．②2019 年度重点目標と達成状況（高平）
①一体型の組織作り、チームで目標を達成する。
②言語聴覚士科も含め、学校の魅力つくりを行う。
③授業改革推進と学生満足度の向上を目指す。
④産学協同を中心にした教育、就職、卒業後教育を構築する。

＜達成状況①＞
教務部と広報センターに２部署運営体制をさらに強化した。
・情報と共感が流れる対話の実践：実行△、結果△
・運営の基本や理念を大切にする組織づくり：実行○、結果△
・変化の対応に積極的な人材が活躍できる組織づくり：実行△、結果△

＜達成状況②＞
福祉保育医療を学ぶ学校の魅力作りとその発信
・学科を超えた学びを具体的に実践：実施○、成果△
・出願率の向上強化：実行○、結果△
・学生プレス：実行◎、結果△

＜達成状況③＞
授業改革の推進と学生満足度の向上を目指す。
・授業改革の推進と並行して授業の見える化：実行○、結果△
・主体的な学び強化と教育の見える化：実施△、成果×
・職業人教育とキャリア教育の理解と実践：実施△、成果×

＜達成状況④＞
産学協同を中心にした教育、就職、卒業後教育の構築
・産学協同教育のモデル実施：実施○、結果△
・全ての学科が卒業式までに全員就職内定：実施○、結果△
・同窓会組織の自立支援と卒業後教育や教員確保の実現：実施○、結果○
＊卒業生の力を借りてオンラインで同窓会支援を行いたい。

＜2020 年度重点目標＞
① 学校の新設・分離と統合運営イノベーション：埼玉福祉・埼玉ベルの情報共有を重視して、新しい取り組みを行っていく。
② 広報や教育やイベントにてオンラインでの取り組みを行う。例として、オンラインであれば講演を来校しなくても聞くことできる。
③ マネージャーを育成し、運営できる力を高める。学校外の情報をキャッチして、積極的に組織内で展開していけるようにしたい。

４．③2020 年度自己評価内容
＜教育理念・目的・育成人材像（渡辺）＞
・数字をエビデンスとして大切な指標にしている。
・2019 年度 退学者：3.1%（10 名）、離職率：5.6%、資格取得：介護福祉士 97%、社会福祉士 96%

（溝上）
一部心に病気を抱えた学生がおり、卒業や就職も難しいケースもある。このような学生について、添えない部分もあると思われるがどのように対応しているか。
（高平）
やる気と適性を見て入学はさせている。適性が課題。職業に就いたとき、かなり支援が必要な状況であれば、入学が難しいと判断することもある。また、学生生活の中で、あらかじめ課題と合理的配慮を実施している。入学後は学校が責任を持っている。本人の適性をみて就職をあてがうようにしている。
（飯塚）
臨床心理士が３名いる。専門的なサポートや医療機関との連携を含めて実施している。
（高平）
仕事よりも通学の方がハードルのあることがあり、アルバイトには行っている学生もいる。専門家も入れて判断している。

（溝上）
子どもの現状を受け入れられない保護者もいる。先生方の大変さもあるため、支える先生方のケアやサポートも大事だと思う。

＜学校運営（渡辺）＞
・事業計画を作成している。年度前に計画や数字を立て、実行しているが、年度途中に修正することもある。
・情報システム化については「２」の評価をした。昨年度は iPad による出席入力を取り入れたが、全ての講師に徹底できなかった。今年度はオンラインが実施されるようになり、入力されている。

（島村）
当保育園でも数字で表すようになった。業務の見直しになり、参考になった。
経営では数字で見るが、現場はそうでもない。せめて現場にコスト意識を持って欲しい。具体的に示すことができると良い。数字での評価を行っていきたいが、業務に追われて整備できていない。

＜教育活動（渡辺）＞
・「教育指導要領」は学生との契約書として読み合せている。その中に養成目的やカリキュラム等が記載されている。
・コマシラバスを毎授業作成しているが、今年から紙ではなくオンラインを導入している。
・就職相談会はやり方を変えて実施する。

（溝上）
介護福祉士について高校から専門学校に行く意義を問われる。魅力を教えて欲しい。
（北村）
専門学校はフォロー体制が手厚い。大学は自己責任が強い。専門学校は仕掛けを計画建てて教育し、国家試験合格と就職について、全スタッフが取り組んでいる。
（飯塚）
専門学校では論理的に筋道を立てて学べる。現場では体験的。高齢者は同じ人がいないため、論理的に学んでいる人は仮説を立てられるし、その行為の意義が分かる。
（小野）
根拠について丁寧に伝えられる。実習や体験もカリキュラムに組んでいる。
（内田）
施設にも専門学校で学んだ人とそうでない人どちらもいる。専門学校で介護を学んできた人は「介護観」をしっかり持っていて、非常に頼りになる。
（亦野）
キャリア教育「３」だが、これはどうしてか。
（高平）
年齢層が幅広いため、キャリア教育とは個別教育に近い。個別対応の体制が整っているかについて評価した。教員もその点は慣れている。組織としてはまだ課題と感じている。
（野本）
キャリア教育を身につけた若者は少ない。専門学校は授業自体がキャリア教育だと思う。埼玉福祉では取り組んでいるが、世間一般ではまだまだだと思う。

＜学修成果（渡辺）＞
・卒業生の社会的評価を「２」としたが、今年度は同窓会を強化していく。

（島村）
離職率を下げるために、学校と現場との接点をどう持っていくか。自分の先輩が職場にいるかも大切だと思う。現在見学が難しいため、ウェブ見学を行っている。実習以外に現場を身近に感じられる機会を持てないか？
（溝上）
数字の怖さもあると思う。退学理由が夢が他に変わった・学校が嫌でやめた、では全く異なる。何がなんでも退学させないではおかしい。退学理由が前向きなものであるか否かも大切だと思う。
（小川）
グループとしては退学０を目的とはしていない。自分の夢を見つけた場合は、キャリアセンターの力で別分野への就職を支援することもある。

（溝上）
グループの中で横のつながりがあることを知った。
（小川）
そのような支援をして就職した学生もいる。進路変更したくなった学生はいたたまれないので、サポートしていきたい。
（野本）
専門学校の欠点は進路変更が難しいことだと思う。薬科大学では自殺した学生も。お金もかかるし、やめたら親に迷惑がかかるため。グループの力で是非発展させて頂きたい。

＜学生支援（渡辺）＞
・就職について個別指導や模擬面談を実施した。
・就職対策の基本をハンドブックにした。
・カウンセラーの利用を促し、活用されている。
・学生の地域での活動をサポートしている。
（島村）
経済的な支援を学生に聞いている。保育士を増やすため、さいたま市とも連携している。保育体制支援事業として、保育園でアルバイトをし、夜間は学んでいる学生もいる。
（境野）
さいたま市の貸付就学資金があり、５年その地域で働けば返還が免除になる。この制度ができてからは、活用がすすみ、学費の問題でやめる学生は減った。
企業や公共団体にも経済的支援の制度が今後もあれば、学業を続けやすい。
（飯塚）
経済的問題でやめる学生は今はいない。
（野本）
無償化の申請が通っている学校なので、知らない学生らに学校回りの際に是非教えてあげて欲しい。
（飯塚）
留学生では企業や法人で独自の支援制度があることもある。
（溝上）
どのくらいの支援があれば良いのか？
（野本）
高校からの相談の大部分が学費の支援についてである。制度が増えているし、学校によっても使える制度が異なるので、一覧表などあると良い。
（飯塚）
職業選択の自由がある。ワーク＆スタディで働くと、大きなメリットがある。そちらに就職できれば一番良い。
（島村）
人材紹介会社から「今年３月に就職する人を紹介するので紹介料をください」との問い合わせがあり、疲弊している。
（沼澤）
当校ではそのような登録は禁止している。

＜教育環境（渡辺）＞
・マニュアルを作成し、防災訓練を行った。

＜学生の募集と受け入れ（渡辺）＞
・募集要項から外れることなく募集を行った。

＜財務（高平）＞
・5 カ年計画を立て、見立ての通り実施した。
・情報公開を行い、収支計算書なども公開している。

＜法令等の遵守（渡辺）＞
・情報公開にて学則など公開している。

＜社会貢献（渡辺）＞
・自治会への活動や地域のイベントへの参加を支援した。
・国際教育については今後留学生も活用していく。

（山田）
別件だが、アルバイトではうまくいくが、学校ではうまくいかない学生について。
アルバイトでは役割がある。学校では目的を達成しなくてはいけない。環境が全く異なることをはっきり伝えることも大事。使う側としてはアルバイトは使い捨てである。
病休しても無理な学生は、カウンセリングをして復学を目指してもどうかと思う。
若者は話を聞くことが苦痛な人が多い。高齢者の話を聞き流す方法を教えるなど、強さ・たくましさを教えることも必要ではないか。

５．謝辞
（小川）
埼玉福祉の委員は最もご意見を活発に頂け、業界や地域と一緒に作っている学校であると感じている。
次年度の事業計画の作成をスタートしているが、学校関係者委員会のご意見をもとに事業計画を修正しているため、今後とも宜しくお願いしたい。
（青木）
キャリア教育など、多様な意見をいただいた。
社会に人材を送り出す役割があるため、今後とも様々な場面でご指導をいただきたい。